

## 付け木 (つけぎ)

近所から、重箱に入った赤飯や餅<sup>もち</sup>などをもらうと、その重箱を返すときに、ちょっとしたお礼を付けることがありました。そのお返しのことを「(お) 付け木」といいます。

## 〈こんなときに使います〉

○子どもが隣<sup>となり</sup>の家に届け物をしたとき

「おばあちゃん、うちのおばあちゃんが赤飯を作ったから持ってきたよ。どうぞ。」

「あら、まあくん、ありがとうね。付け木あげるから、まあくんが重箱取りに来てちょうだいね。」

(次の日)

「おばあちゃん、重箱取りに来たよ。」

「まあくん、ありがとう。…はい、これ付け木だからね。」

「うわあ、キャラメルだ! ありがとう、おばあちゃん。」

ぼくは、付け木にいちごをもらったまる☆☆



## 〈付け木の説明〉

「付け木」とは、薄く割った板の先に硫黄<sup>いおう</sup>を付けたもの。起こした火をほかのものに移すときに使いました。

※硫黄：火薬に使われる原料。  
医薬品にも使われる。



付け木

いただいたことに感謝をする気持ちを込めて、容器を返すときに「付け木」を付けました。やがて、付け木の代わりに「マッチ」を付けるようになり、転じて、お菓子などをあげるようになりました。そして、お返しに付けるものを「(お) 付け木」というようになりました。

特に、子どもが使いで来たときには、子どもが喜ぶキャラメルやお駄賃<sup>だちん</sup>をあげて、仕事をしてくれたことへの感謝を伝えました。